

CAUA フォーラム 2016 全体講評 「学生の役に立つ ICT セキュリティ教育のこれから」

安東 孝二
(株)mokha 代表取締役、CAUA 運営委員長

2016 年 7 月 14 日に TKP ガーデンシティ PREMIUM 秋葉原で、CAUA フォーラム 2016「学生の役に立つ ICT セキュリティ教育のこれから」が開催されました。社会環境はめざましく変化しますが、特に ICT 境界の変化の速さは圧倒的です。昨今、ICT セキュリティについて社会全体が対応を迫られる中、企業が新入社員を送り出す大学に求める人材像なども考えながら、大学生自体の役に立つ ICT 教育とは何かを考えることを今回の議論の主眼に据えました。

基調講演とパネルディスカッションから構成されるフォーラムですが、最初に九州大学のサイバーセキュリティセンター長の岡村耕二氏に「リテラシー教育としてのサイバーセキュリティ」と言うタイトルのご講演をいただきました。九州大学はサイバーセキュリティセンターを立ち上げ、重点的にサイバーセキュリティ教育（ICT セキュリティ教育）を行なっている先進的な国立大学の一つです。普段は外部から垣間見ることができない国立大学のリアルなセキュリティ教育の詳細が垣間見得たことは、特に企業サイドの方には重要な知見となったのではないかと思います。おそらく九州大学が国立大学の中で最も先進的に全学的に ICT セキュリティ教育を進めている大学だと思います。その他のほとんどの大学での取り組みが不十分であることが浮き彫りになりました。

パネルディスカッションはコーディネータに根津育英会武蔵学園理事の小野成志氏を迎え、基調講演の岡村氏に加え、室蘭工業大学の刀川眞氏、大企業で人事を担当されている現役社員である、伊藤忠テクノソリューションズ(株)の浜田浩史氏、日本ヒューレット・パカード(株)の大武雅直氏にご登壇いただいた。

刀川氏は企業人から大学人になられた幅広い観点から厳しく大学の現状に斬り込んでいただきました。特に大学生が社会人としての視点を持っていないという指摘は、実質的には完全な社会人としては扱われていない日本の大学生のリアルな感覚だと思います。組織や顧客を守るという社会人としての視点の欠如は、それを養成できない日本の大学、社会への厳しい指摘であります。一方で刀川氏の指摘した常識や人間力やメタ知識獲得能力を学生が養成できるような教育の方向性への示唆は問題の本質に迫るものであろうと思います。浜田氏と大武氏には、大企業の人事部の ICT セキュリティに対するスタンスを詳しくお話しいただきました。大企業でも日本の大企業と外資系の大企業の微妙な立ち位置の違いも垣間見られ大学サイドの方には興味深かったのではないかと思います。浜田氏がいう「ビジネスマンに求められるセキュリティ感性」というキーワードに考えさせられました。刀川氏のいう「社会人としての視点」に相当するものだとすると、そこに企業と大学の間のインピーダンスミスマッチを感じざるを得ません。企業は自社に都合のいいアタリマエを期待し、大学はジェネリックなアタリマエを教育する現状に解決策はない気がします。解決のためのヒントがあるとすれば、刀川氏のいう「メタ知識獲得能力」だと思います。「メタ知識獲得能力」を醸成できる教育を大学が行い、企業は高い「メタ知識獲得能力」を期待して採用活動を行う形になれば、それが学生にとって役に立つ ICT セキュリティ教育に繋がるのだと感じました。

一朝一夕に答えが出るテーマではありませんが、企業と大学の立場から ICT セキュリティ教育について議論ができたことが大変有意義であったと考えています。